

第62回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2010年11月25日（木）10：00～20：30
 2. 場 所：日本機械学会 第1会議室
 3. 出席者：（委員25名中、出席者23名；敬称略）
小山（MHI）、永田（日立GENE）、堂崎（原電）、三木（富士電機システムズ）、野村（関電）
植田（原安委）、小木曾（川崎重工）、吉田（発電技検）、船田（JNES）、齋藤（原技協）
三浦（JSW）、鹿島（電中研）、藤澤（保安院）、国則（電気協会）、鬼沢（JAEA）、平山（東芝）
町田（テプシス）、肥田（中部プラント）、小島（東電）、栗飯原（東大）、山田（中部電）
北条（高橋委員代理）、浅山（森下委員代理）
欠席者：飯井（福井大学）、兼近（鹿島）
オブザーバー：太田／寺門（原電）、杉江（原技協）、澄川（日立）、高坂（日本原燃）、松浦（東電）
齋藤、山本（東芝）、阪田（OCL）、三枝（電中研）
事務局：薄井、高柳
 4. 配布資料
- 62-1：第61回原子力専門委員会議事録案
 - 62-2：投票結果
 - 62-3：新規質問及び未回答質問
 - 62-4：第54回発電用設備規格委員会議事録案
 - 62-5：原子力専門委員会委員／分科会委員案
 - 62-6-1：JSME 規格へのMDEP 成果の反映
 - 62-6-2：RI-ISI 規格検討タスクの設置
 - 62-6-3：爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスクの設置
 - 62-6-4：「事例規格」の「出版」及び「改訂」の改訂提案
 - 62-6-5：委員会資料取扱内規提案の書面投票対応
 - 62-6-6：追補版の名称
 - 62-6-7：各分科会平成23年度活動計画等
 - 62-6-8：材料規格改訂状況
 - 62-6-9：MDEP対応状況
 - 62-6-10：LSSD 検討準備タスクの設置提案
 - 62-7：再処理設備 溶接規格に対する御意見への回答
 - 62-8-1：溶接規格2010年追補版案公衆審査意見対応案
 - 62-8-2：事例規格母材のP-No 区分原子力専門委員会書面投票対応案
 - 62-8-3：原子力専門委員会書面投票対応案
 - 62-8-4：溶接規格2007年改訂版に対する誤記訂正
 - 62-8-5：溶接規格改訂案原子力専門委員会書面投票提案
 - 62-9-1：金属キャスク構造規格2010年追補版改訂案
 - 62-9-2：事例規格「溶接部の機械試験に関する代替規定」案原子力専門委員会書面投票対応案
 - 62-9-3：金属キャスク2007年版質疑応答案件（QFA200703,04）
 - 62-10-1：質問回答案
 - 62-10-2：設計建設規格2010年追補版改訂案公衆審査コメント対応案
 - 62-10-3：設計建設規格2011年追補版改訂案原子力専門委員会書面投票対応案
 - 62-10-4：2008年版正誤表提案
 - 62-11-1：質疑応答（QNC200578,79,80）
 - 62-11-2：事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規定案
 - 62-11-3：材料規格2010年改訂案
 - 62-12-1：検査間隔が7年に変わった後のポンプ及び弁の試験の考え方案
 - 62-12-2：95℃を超える系統の支持構造物の補修・取替時の供用前検査範囲、実施時期案
 - 62-12-3：建設中の供用前検査実施時期

- 62-12-4：ピーニング方法改訂案
- 62-12-5：クラス1機器の欠陥評価関連規定改訂案
- 62-12-6：容器の溶接継手に対する試験程度
- 62-12-7：事例規格欠陥評価における JEAC4601-2008 に基づく地震力の扱い案
- 62-12-8：事例規格ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案
- 62-12-9：扇形欠陥模式図の改訂案
- 62-12-10：維持規格 2010 年追補版案公衆審査意見対応案
- 62-12-11：事例規格欠陥評価における JEAC4601-2008 に基づく地震力の扱い案公衆審査計画

5. 議事内容

(1) 開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

(2) 出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

(3) 議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

(4) 前回議事録確認【資料 62-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

(5) 投票結果報告【資料 62-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No.204 から 211、規格委員会投票 No.138 から 142 の投票結果が報告された。

(6) 新規質問及び未回答質問【資料 62-3】

事務局より、設計・建設規格（第 I 編、2005 年版）に関する質問（6 件）、金属キャスク構造規格 2007 年版に関する質問（2 件）の新規受付が報告された。

(7) 第 54 回発電用設備規格委員会議事録報告【資料 62-4】

事務局より、第 54 回発電用設備規格委員会の議事録が報告された。

(8) 原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 62-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会

〔再任〕 平山委員、肥田委員

設計・建設分科会：

〔再任〕 鵜飼委員

材料分科会：

竹内委員の材料分科会幹事就任（2010,11,18 材料分科会互選結果）

維持規格分科会：

〔再任〕 宮崎委員、桑水流委員、湯口委員

溶接分科会：

〔再任〕 森脇委員

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔再任〕 格内委員、阪田委員、下条委員

認証・認定分科会：

〔再任〕 川端委員

〔退任〕 山下委員

〔新任〕 波木井氏（東電）

配管破損防護設計分科会：

〔再任〕 町田委員、飯泉委員

コンクリート製格納容器規格分科会：

〔再任〕 大坂委員

高温規格分科会：

〔新任〕 井上氏（JNES）

再処理設備分科会：

〔再任〕 林委員

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会再任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。ただし使用済燃料貯蔵施設分科会の格内委員は出席回数が極めて少なく、保留となった。

（９）原子力専門委員会運営に関する審議

〔審議事項〕

（９－１）JSME 規格への MDEP 成果の反映【資料 62-6-1】

小山委員長より JSME 規格への MDEP 成果の反映方針について説明が行われた。JSME 規格への MDEP 成果の反映は長期的検討は規格委員会、短期的検討は原子力専門委員会にてタスクを設置し、検討を行い、2011 年の 6 月頃に成果報告書をまとめる予定。今後規格委員会にて本案が承認後、原子力専門委員会分タスクについては設置のための書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・これまでの MDEP 成果を利用するルーチンが必要ではないか。MDEP 成果報告書は JSME 各委員会等に開示され、利用することができるのか。→MDEP の委託元は NISA/JNES であり、著作権をクリアする必要がある。
- ・溶接規格の扱いを検討する必要があるのではないか。ASME では溶接施工法等整備されている。

（９－２）RI-ISI 規格検討タスクの設置【資料 62-6-2】

町田委員より RI-ISI 規格検討タスクの設置について説明が行われた。RI-ISI に関する勉強会の状況等踏まえ、リスク情報を維持規格の欠陥評価に限定せず、配管減肉評価にも活用する方向で今後タスクを設置し、検討を実施する予定。タスク設置のための書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－３）爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスクの設置【資料 62-6-3】

山田委員より爆轟による配管健全性評価における歪み制限検討タスクの設置について説明が行われた。原技協から「BWR 配管における混合ガスの燃焼による配管損傷防止に関するガイドライン」が発行されたことを踏まえ、配管内爆轟時の配管の健全性評価においては歪み制限の考え方が導入されているため、JSME の事例規格化するに当たり、その検討のためのタスクを設置するというもので、タスク設置のための書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－４）事例規格の出版及び改訂提案【資料 62-6-4】

齋藤委員より事例規格の出版及び改訂提案について説明が行われた。規格委員会の書面投票において反対投票があったが、事例規格集出版自体への反対ではなく、内規記載への意見であったため、事例規格集は発行し、内規改訂は別途議論するという提案が委員全員の賛成により承認された。

（９－５）委員会資料取扱内規提案の書面投票対応【資料 62-6-5】

齋藤委員より委員会資料取扱内規提案の書面投票対応に関する説明が行われた。核融合専門委員会、火力専門委員会、材料専門委員会において書面投票が実施され、火力専門委員会において反対票が有り、今後対応案

を検討して、再投票を行う予定とのことであった。

(9-6) 追補版の名称【資料 62-6-6】

山田委員より追補版の名称に関する説明が行われた。今後発行する追補について、「201X 年追補版」の名称を改め、他規格と整合を図る「201X 年追補」とし、規格の適用年版を記述する際には、201Y 年版（201X 年追補を含む）等の記述とする提案が委員多数の賛成（賛成 22 名；保留 1 名）により承認された。主な議論は以下の通り。

・追補版を並べて記載する時、201X/201Y/・・・、あるいは 201X, 201Y,・・・等、複数のパターンがあるので、今後統一を図る。→山田委員にて検討。

[報告事項]

(9-7) 各分科会平成 23 年度活動計画等【資料 62-6-7-1~3】

堂崎幹事より各分科会平成 23 年度活動計画等が説明された。現在各分科会にて平成 23 年度活動計画が検討されており、内容等コメントがあれば堂崎幹事／事務局まで連絡することになった。「JSME 発電用原子力設備規格の技術評価に関する状況」（資料 62-6-7-3）は保安院によるエンドース計画のベースとなる資料であり、内容に一部誤記があるため、修正することになった。

(9-8) 材料規格改訂方針に関する検討状況【資料 62-6-8】

材料規格改訂方針検討タスクの齋藤主査より材料規格改訂方針検討タスクにおける検討状況並びに材料規格改訂状況に関する説明が行われた。原子力専門委員会書面投票で反対票が入り、その対応を検討中。また二次改訂に向けた検討項目の優先順位を設定、担当等決定したとのことであった。

(9-9) MDEP 対応状況【資料 62-6-9】

永田副委員長より MDEP 対応状況について説明が行われた。各 SDO が最終報告書の原稿を作成することになったこと、小山田委員より比較検討の際に JSME 規格以外に ASME 規格を適用していることを考えれば相違点はもっと小さいこと、WNA CORDEL グループより SDO に対して規格相違点を検討する様要求するレターが発出された等、報告された。

(9-10) LSSD 検討準備タスクの設置提案【資料 62-6-10】

小山委員長より現在規格委員会幹事会にて LSSD (Limit State Based Structural Design Code) 検討準備タスクの設置提案が検討されており、次回規格委員会にて提案予定の旨、報告された。本件、コメント等あれば 12,8 までに小山委員長／事務局まで連絡することになった。

(9-11) Due Process 強化書面審査における担当査読者制度の導入提案【資料 62-6-11】

小山委員長より現在規格委員会幹事会にて Due Process 強化書面審査における担当査読者制度の導入提案が検討されており、次回規格委員会にて提案予定の旨、報告された。本件、コメント等あれば 12,8 までに小山委員長／事務局まで連絡することになった。

(10) 発電規格に関する報告／審議

(10-1) 再処理設備規格改訂案に関する審議【資料 62-7】

再処理設備分科会の澄川主査より再処理設備規格 溶接規格案に関する説明が行われた。原子力専門委員会書面投票に対する検討を行っており、論点等の整理を行い、次回に対応案を説明予定とのことであった。

(10-2) 溶接規格改訂案に関する審議【資料 62-8-1~5】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案について説明が行われた。内容は以下の通り。

①溶接規格 2010 年追補版案公衆審査意見対応案【資料 62-8-1】

溶接規格 2010 年追補版案に関する公衆審査の意見対応案について説明が行われた。議論の結果、対応案が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・溶接規格 2010 年追補版案のクラス 3 容器及びクラス 3 相当容器の「N-4030 開先面」の規定で、クラス 2 容器の「N-3030 開先面」の(3)項が抜けているとの意見があったが、「電気工作物の溶接の技術基準」でも規定されておらず、2007 年改訂版作成時にクラス 2 容器の「N-3030 開先面」の(3)項を追加する改訂を行った際、除外する改訂を行うべきであったが、「N-3030 開先面について準用する」という記載であったため、その不整合に気が付かなかった。

②事例規格母材の P-No 区分原子力専門委員会書面投票対応案【資料 62-8-2】

事例規格母材の P-No 区分原子力専門委員会書面投票対応案について説明が行われた。当初案に対して JISH3100 銅及び銅合金の板状及び条等が追加されており、議論の結果、再書面投票（期間 2 週間）を実施することが委員全員の賛成により承認された。

③原子力専門委員会書面投票対応案【資料 62-8-3】

原子力専門委員会書面投票対応案について説明が行われた。議論の結果、反対票は取り下げられず、二次投票（期間 2 週間）の実施が委員多数の賛成（賛成 20 名、反対 2 名、保留 1 名）により承認された。なお、W10-07 アルミニウム溶接士資格解説見直し（可決）については対応案が編集上の修正であることが承認された。主な議論は以下の通り。

〔W08-05 溶接後熱処理の方法及びその解説見直し〕

- ・PWHT の目的やその効果については、長期的課題として検討する。

〔W09-12 ホットワイヤティグ溶接電極数見直し〕

- ・ミグ溶接では心線が電極の役割をしている。ホットワイヤティグ溶接で電極を確認しなくて良いのか？→ホットワイヤは溶加材であり、心線ではない。ホットワイヤからはアークが発生しないのでミグ溶接とは区別される。

- ・サブマージ溶接でホットワイヤが使用される可能性があると考えられる。→サブマージ溶接では、その工法からホットワイヤが使用されることは今後もあり得ない。

〔W10-05 熱影響部の衝撃試験片採取要領の解説追加〕

- ・同じ P-No で材質名が異なる場合の溶接継手は異材継手とは呼ばないとし JISB8265 の規定を基に JISB8267 において「衝撃試験片は異材継手の場合、それぞれの母材から採取すると規定しているのは、材質が異なる場合ごとに要求しているものではないことは明らかと考えられる。」としているが、二次投票を実施する前に日本規格協会に照会すべきではないか？→照会は不要との委員が多数（照会不要 20 名、照会要 3 名）。

尚、回答案での「明らか」という表現は削除する。

④溶接規格 2007 年改訂版に対する誤記訂正【資料 62-8-4】

溶接規格 2007 年改訂版に対する誤記訂正が説明され、議論の結果、委員全員の賛成により承認された。

⑤溶接規格改訂案原子力専門委員会書面投票提案【資料 62-8-5】

溶接規格改訂案原子力専門委員会書面投票提案として、上記③の二次投票案件に加えて、新規の原子力専門委員会書面投票提案が行われ、委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・P.39 の表-1(3)における確認項目の欄の○と－及び追加要求の意味は何か？→○は essential variable になるもので、－はならないものである。追加要求は、基本的な確認項目以外の電子ビーム溶接の場合の特別な確認項目である。

（10-3）使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 62-9-1,2,3】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、阪田委員より使用済燃料貯蔵施設規格改訂案について説明が行われた。内容は以下の通り。

①金属キャスク構造規格 2010 年追補版改訂案【資料 62-9-1】

金属キャスク構造規格 2010 年追補版改訂案の規格委員会書面投票（可決）回答案について説明が行われた。書面投票において現在審議中の材料規格 2010 年改訂版との整合について意見があり、分科会としてはいったん、本提案を取り下げて、材料規格 2010 年改訂版の制定後に再度提案したいとのことであった。これに対して取り下げでは次回提案時には最初から書面投票等開始することになり、対応作業等考慮して本提案は保留扱いとすることになった。

②事例規格「溶接部の機械試験に関する代替規定」案原子力専門委員会書面投票対応案【資料 62-9-2】

事例規格「溶接部の機械試験に関する代替規定」案の原子力専門委員会書面投票対応案について説明が行われた。議論の結果、反対票は取り下げられず、二次投票を実施することが委員多数の賛成（賛成 21 名、反対 2 名）により可決された。主な議論は以下の通り。

- ・適用範囲において、「同一の溶接施工場所であること」とは、同一の施工会社が、同一の品質保証体制で溶接すれば、連続製作で同一の品質保証が期待できる、旨、解説に追記すること。追記した案を事務局に送付すること。
- ・保安院の核燃料管理規制課では、機械試験板は容器毎に製作することとの意見があるが、機械学会では技術的な観点での提案として進める。

③金属キャスク 2007 年版質疑応答案件（QFA200703,04）【資料 62-9-3】

金属キャスク 2007 年版質疑応答案件（QFA200703,04）について説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により承認された。

（10-4）設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 62-10-1~4】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①質問回答案【資料 62-10-1】

質問（QNC200571,72）に関する回答案について説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により承認された。

②設計建設規格 2010 年追補版改訂案公衆審査コメント対応案【資料 62-10-2-1,2】

設計建設規格 2010 年追補版改訂案公衆審査コメント対応案について説明が行われた。議論の結果、対応案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・N0.9,10 について、部分溶込み溶接を規定する際は溶込み深さを規定する必要があるのではないか？→溶込み深さ規定は不要との委員が多数（必要 1 名、不要 22 名）。

③設計建設規格 2011 年追補版改訂案原子力専門委員会書面投票対応案【資料 62-10-3-1,2,3】

設計建設規格 2011 年追補版改訂案原子力専門委員会書面投票対応案について説明が行われた。議論の結果、N0.4 は反対票が取り下げられず、今回の改訂案から取り下げることになった。また N0.14 は再投票（期間：2 週間）を実施すること、他の案件は全て対応案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・N0.14：今回欠席の森下委員以外の反対票は取り下げられた。今後は森下委員の意向を確認し、取り下げの場合は再投票（期間：2 週間）を実施することが委員全員の賛成で承認された。→その後森下委員の反対票は取り下げられたため、再投票を実施。
- ・N0.3：JIS Z2323 の「7.検証」に書かれている紫外線強度計及び照度計の校正は本当にできるのか？→JIS の要求は推奨である。→「7.検証」の「紫外線強度計及び照度計の校正は、国家標準に対応できる紫外線強度計及び照度計の校正標準を使用して、製造業者によって推奨された頻度で確認するのがよい。」という規定に関

し、末尾の「よい」は「頻度」にしかかからないのでは？→全体にかかる。

④2008年版正誤表提案【資料62-10-4】

2008年版正誤表提案に関する説明が行われ、委員全員の賛成により承認された。

(10-5) 材料規格改訂案に関する審議【資料62-11-1~3】

材料分科会の山田主査より材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①質疑応答 (QNC200578,79,80)【資料62-11-1】

質疑応答 (QNC200578,79,80) 回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・QNC200579について、伸びについてはJISと同等の試験方法とする旨、要求事項があるが、不要ではないか？
→要求事項は必要との委員が多数(必要16名、不要6名)。

②事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1Bに関する規定案【資料62-11-2】

事例規格圧力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1Bに関する規定案の原子力専門委員会書面投票対応案について説明が行われた。対応案ではSu値について一部設定値変更(350℃のデータの最小値と400℃のデータの最小値とを直線で結んで補間)等実施しており、議論の結果、対応案は技術的変更となるので、再投票を実施(投票期間:2週間)することが委員全員の賛成で承認された。主な議論は以下の通り。

・追補版の名称に関する議論を踏まえ、今回は「追補」としないのであれば、タイトルは「2007年追補版を含む」とする。

③材料規格2010年改訂案【資料62-11-3】

材料規格2010年改訂案の原子力専門委員会書面投票対応案について説明が行われた。一次改訂においてSm,S値でASME同等材がないものは設計建設規格2005年版の付録材料図表の数値に合わせるという方針が材料規格改訂方針検討タスクで示されているが、高温のSy,Su値と一部不整合がある材料で比較的容易に解決可能なものは今回新規材料採用ガイドラインに従って修正するという分科会案が提案された。これに対して、委員多数の賛成により分科会提案が承認(分科会提案承認15名、タスク通り修正不要8名)された。

また材料規格2010年改訂案の原子力専門委員会書面投票対応案については以下の二案が提案された。

A案:原子力専門委員会書面投票対応案を反対票があるものの現行案通りとする対応(二次投票)、現行案を技術的に修正する対応(再投票)に仕分けし、投票を行う。

B案:全ての案件を再投票する。

採決した結果、委員多数の賛成でA案が採用(A案20名、B案2名)された。今後は12月6日に材料分科会が開催され、書面投票用資料をそこで完成させ、12,7~12,27の期間で書面投票を実施することにした。主な議論は以下の通り。

- ・今回設定値を修正するSm値は45個ある。
- ・高温のSy,Su値と一部不整合がある材料の数値を適正化することは材料規格改訂方針検討タスクの方針から外れていない。不整合の修正は以前から指摘してきた。

(10-6) 維持規格改訂案に関する審議【資料62-12-1~7】

維持規格分科会の野村主査、斎藤副主査、町田幹事、検査作業会の寺門主査、太田委員、評価作業会の北条主査、補修作業会の山本主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①検査間隔が7年に変わった後のポンプ及び弁の試験の考え方案【資料62-12-1】

原子力専門委員会二次投票の結果、可決となり、二次投票意見回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案並びに規格委員会への書面投票提案が承認された。主な議論は以下の通り。

- ・保全計画は事業者が定めるものだが、今回の改訂で ISI の間隔が 10 年から 7 年になっても保全計画は変えないという根拠が分からない。規格委員会に説明する際には 2 次投票での反対意見も取り下げられていないことを紹介すること。

②95℃を超える系統の支持構造物の補修・取替時の供用前検査範囲、実施時期案【資料 62-12-2】

原子力専門委員会二次投票の結果、可決となり、二次投票意見回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案を見直し、次回原子力専門委員会で再度説明することになった。主な議論は以下の通り。

- ・高温になる系統の支持構造物の供用前検査実施時期の説明の記載が不十分。例えば起動時高温状態でも需給事情等踏まえて、必要に応じて検査を実施している。補修後の健全性確認のための検査と供用前検査の 2 つの検査を区別して議論できるよう誤解のない記載にする必要がある。

③建設中の供用前検査実施時期【資料 62-12-3】

規格委員会書面投票の結果、反対票があり、その回答案について説明が行われた。議論の結果、回答案は技術的変更となるので、規格委員会に書面投票意見対応を説明後、再投票を実施（投票期間：2 週間）することが委員多数の賛成（賛成 22 名 保留 1 名）で承認された。

④ピーニング方法改訂案【資料 62-12-4】

規格委員会書面投票で反対票を投じている委員への説明状況の説明があった。前回の原子力専門委員会で承認されているとおり、本案による規格委員会への説明提案が確認された。

⑤クラス 1 機器の欠陥評価関連規定改訂案【資料 62-12-5】

規格委員会書面投票の結果、反対票があり、その回答案について説明が行われた。議論の結果、本案による規格委員会への説明提案が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・回答案は全て現行規定案通りとする内容になっているが、改訂内容が分かりにくい面もあり、現行のクラス 1 機器欠陥評価フローを今後見直すことも検討すべきではないか。

⑥容器の溶接継手に対する試験程度【資料 62-12-6】

規格委員会書面投票結果（可決）回答案について説明が行われた。議論の結果、本案による規格委員会への説明提案が委員全員の賛成により承認された。

⑦事例規格欠陥評価における JEAC4601-2008 に基づく地震力の扱い【資料 62-12-7】

規格委員会書面投票結果（可決）回答案について説明が行われた。議論の結果、本案による規格委員会への説明提案が委員多数の賛成（賛成 22 名、反対 1 名）により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・引用元に JEAG4601-2008 を取り入れているが、JEAG4601-2008 は保安院としてはエンドースしないことにしている。JEAC4601-2008 を引用するだけで十分ではないのか。
- ・Sd, Ss の地震動は JEAG4601-2008 に規定されているので、JEAG4601-2008 の引用が必要である。

⑧事例規格ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案【資料 62-12-8】

事例規格ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案について説明が行われた。今回は BWR でのデータを基に提案を行い、適用温度制限は 288℃としているが、PWR のデータが得られたら、早い段階で PWR 版の事例規格を提案したいとのことであった。議論の結果、原子力専門委員会書面投票の実施が委員多数の賛成（賛成 22 名、反対 1 名）により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・引用文献の Fig.6 において、あるデータ群は近似直線と合わない箇所がある。近似直線の妥当性を評価する必要がある。
- ・対象材料には JIS の名称を追記すべきではないか。

⑨扇形欠陥模式図の改訂案【資料 62-12-9】

扇形欠陥模式図の改訂案について説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票の実施が委員全員の賛成により承認された。

⑩維持規格 2010 年追補版案公衆審査意見対応案【資料 62-12-10】

維持規格 2010 年追補版案公衆審査意見対応案について説明が行われた。議論の結果、対応案が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・原子力専門委員会、規格委員会で議論済の意見を公衆審査で再度意見するのはいかなものか。意見しても同じ結論しか得られない。
- ・圧力保持用ボルトの件は、耐圧部分以外のボルトで弁の機能上必要なボルトも試験対象範囲に加えるべきではないか。
- ・空気溜まり等の影響評価について、垂直配管の例を挙げているが、意見は水平配管の場合についてなので、回答の前半の垂直配管についての部分は削除すべきである。

⑪事例規格欠陥評価における JEAC4601-2008 に基づく地震力の扱い案公衆審査計画【資料 62-12-11】

事務局より事例規格欠陥評価における JEAC4601-2008 に基づく地震力の扱い案の公衆審査計画が説明され、委員全員の賛成により承認された。

(11) 各分科会活動報告【資料 62-15】

各分科会より活動報告が説明された。

6. その他

今後の原子力専門委員会の開催予定は以下の通りとなった。

- ・第 63 回臨時原子力専門委員会（予定）：2011 年 1 月 6 日（木）13:30~17:00・・・材料規格改訂対応
- ・第 64 回原子力専門委員会：2011 年 2 月 23 日（水）10:00~17:00・・・通常の原子力専門委員会

以上